

時代を超えて調和するデザイン

～先人は変化の美を楽しむ遊び心があった～

竹原の町並みの特徴は、他の地区に見られる統一されたデザインではなく、屋根や街路など変化をもたせながらも全体として調和するデザインとなっています。このように先人は変化の美を楽しむ遊び心をもっていました。その優れたデザイン力により、異なった時代に建築された建物でも、違和感がなく、歴史的な佇まいとして調和しています。



よ〜く見ると時代の移り変わりが見えてきますよ。建てられた時代が違うのに違和感がないのが不思議じゃのぉ〜



ここを歩けば、江戸、明治、大正、昭和時代の特徴ある建物を一日で楽しめます!!

- 1 竹原の産業の歴史を紹介する歴史民俗資料館。昭和6年(1931)に竹原町立竹原書院図書館として建てられました。
- 2 江戸時代の建物で、「日本外史」の著者として有名な頼山陽の祖父頼惟清の旧宅。惟清は、紺屋(染物屋)を営み、屋号は、頼兼屋と言いました。惟清の長男春水は、広島藩儒(藩に仕える儒学者)で、名高い学者でした。次男春風は、医者・儒学者として春風館(現在の春風館は再建されたもので国の重要文化財)を建て、三男杏坪も広島藩儒になり、三次の代官を勤めました。



- 3 胡堂は商業の神で、19世紀前期に建てられたもの。江戸中期には、3日市(3日・13日・23日)があり、塩田用の縄・かますなどを売りに来る人でにぎわっていました。保存地区の南に位置する地藏堂とともに境界神と考えられています。
- 4 竹鶴酒造は、享保18年(1733)創業で、県内屈指の老舗。屋号は「小笹屋」。店の一部を「小笹屋酒の資料館」として公開し、酒造関係資料と製品を紹介しています。ニッカウヰスキーの創業者竹鶴政孝氏の生家としても有名です。